様式1

研修カリキュラム表（臨時的代替方法・介護職員初任者研修課程　通学・通信）

事業者名　パルシステム生活協同組合連合会

※実施方法については、「実施要綱」別紙３「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙１）	実施計画					臨時的代替方法による実施内容				
講義・演習（実習）	カリキュラム名・時間数		通学	通信	合計	実施内容		通学	通信	合計
1　職務の理解　6 時間	1　職務の理解　6　時間					1　職務の理解		1　職務の理解　6　時間		
(1) 多様なサービスの理解	(1) 同左		3	0	3	(1) 講義のみ		(1) 講義のみ	3	0	3
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	(2) 同左		3	0	3	(2) 講義・演習：視聴覚教材を用い、働く現場についてグループ毎に話し合って発表をします。		(2) 講義・演習：視聴覚教材を用い、働く現場についてグループ毎に話し合って発表をします。	3	0	3
2　介護における尊厳の保持・自立支援　9 時間	2　介護における尊厳の保持・自立支援　9　時間					2　介護における尊厳の保持・自立支援		2　介護における尊厳の保持・自立支援　9　時間		
			通学	通信	合計				通学	通信	合計
(1) 人権と尊厳を支える介護	(1) 同左		0	4	4	(1) 通信講習のみ		(1) 通信講習のみ	0	4	4
(2) 自立に向けた介護	(2) 同左		1.5	3.5	5	(2) 通信講習／講義・演習：介護予防・残存機能の活用をテーマとした事例について、グループで話合います。		(2) 通信講習／講義・演習：介護予防・残存機能の活用をテーマとした事例について、グループで話合います。	1.5	3.5	5
3　介護の基本　6 時間	3　介護の基本　6　時間					3　介護の基本		3　介護の基本　6　時間		
			通学	通信	合計				通学	通信	合計
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	(1) 同左		1.5	0	1.5	(1) 講義のみ		(1) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0	1.5	1.5
(2) 介護職の職業倫理	(2) 同左		0	1.5	1.5	(2) 通信講習のみ		(2) 通信講習のみ	0	1.5	1.5
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	(3) 同左		1.5	0	1.5	(3) 講義・演習：事故予防や感染予防等の事例に基づき、介護に関るリスクについてグループで話し合い発表をします。		(3) 講義・演習：事故予防や感染予防等の事例に基づき、介護に関るリスクについてグループで話し合い発表をします。	1.5	0	1.5
(4) 介護職の安全	(4) 同左		0	1.5	1.5	(4) 通信講習のみ		(4) 通信講習のみ	0	1.5	1.5

研修カリキュラム（実施要綱別紙１）	実施計画						臨時的代替方法による実施内容					
講義・演習（実習）	カリキュラム名・時間数				実施内容							
4　介護・福祉サービスの理解と医療との連携　9 時間	4 介護･福祉サービスの理解と医療との連携			9 時間	4 介護･福祉サービスの理解と医療との連携		4 介護･福祉サービスの理解と医療との連携			9 時間		
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(1) 介護保険制度	(1) 同左	3	0	3	(1)	通信講習／講義･演習：介護保険制度の理解を深めるため、申請から支給決定迄のフローチャート作成の実技演習をします。	(1)	通信講習／講義･演習：介護保険制度の理解を深めるため、申請から支給決定迄のフローチャート作成の実技演習をします。	3	0	3	
(2) 障害福祉制度及びその他制度	(2) 同左	0	3	3	(2)	通信講習のみ	(2)	通信講習のみ	0	3	3	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 同左	0	3	3	(3)	通信講習のみ	(3)	通信講習のみ	0	3	3	
5　介護におけるコミュニケーション技術　6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術			6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術		5 介護におけるコミュニケーション技術			6 時間		
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 同左	0	3	3	(1)	通信講習のみ	(1)	通信講習のみ	0	3	3	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 同左	3	0	3	(2)	講義･演習：例題を設定し、その例題に基づいてグループでの話し合い発表をします。	(2)	講義･演習：言語・非言語コミュニケーション技術を学ぶため、障害者や認知症に応じた対応方法をグループで話合います。	3	0	3	
6　老化の理解　6 時間	6 老化の理解			6 時間	6 老化の理解		6 老化の理解			6 時間		
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	(1) 同左	3	0	3	(1)	講義･演習：例題を設定し、その例題に基づいてグループでの話し合い発表をします。	(1)	講義･演習：例題を設定し、その例題に基づいてグループでの話し合い発表をします。	3	0	3	
(2) 高齢者と健康	(2) 同左	0	3	3	(2)	通信講習のみ	(2)	通信講習のみ	0	3	3	
7　認知症の理解　6 時間	7 認知症の理解			6 時間	7 認知症の理解		7 認知症の理解			6 時間		
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 同左	0	1.5	1.5	(1)	通信講習のみ	(1)	通信教育のみ	0	1.5	1.5	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 同左	0	1.5	1.5	(2)	通信講習のみ	(2)	通信教育のみ	0	1.5	1.5	
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	(3) 同左	1.5	0	1.5	(3)	講義のみ	(3)	講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0	1.5	1.5	
(4) 家族への支援	(4) 同左	1.5	0	1.5	(4)	講義･演習：認知症の家族事例を聞き、どのような支援ができるか、グループで話し合い発表をします。	(4)	講義･演習：認知症の家族事例を聞き、どのような支援ができるか、グループで話し合い発表をします。	1.5	0	1.5	

研修カリキュラム（実施要綱別紙１）	実施計画						臨時的代替方法による実施内容				
講義・演習（実習）	カリキュラム名・時間数				実施内容						
8 障害の理解 3 時間	8 障害の理解			3 時間	8 障害の理解		8 障害の理解			3 時間	
		通学	通信	合計				通学	通信	合計	
(1) 障害の基礎的理解	(1) 同左	0	0.75	0.75	(1) 通信講習のみ		(1) 通信講習のみ	0	0.75	0.75	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	(2) 同左	0	0.75	0.75	(2) 通信講習のみ		(2) 通信講習のみ	0	0.75	0.75	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	(3) 同左	1.5	0	1.5	(3) 講義・演習：障害者を持つ家族の気持ちや、家族が抱えるストレスについてグループで話し合って発表します。		(3) 講義・演習：障害者を持つ家族の気持ちや、家族が抱えるストレスについてグループで話し合って発表します。	1.5	0	1.5	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 75 時間	9 こころとからだのしくみと生活支援技術			75 時間	9 こころとからだのしくみと生活支援技術		9 こころとからだのしくみと生活支援技術			75 時間	
ア 基本知識の学習 10～13時間	ア 基本知識の学習			11 時間	ア 基本知識の学習		ア 基本知識の学習			11 時間	
		通学	通信	合計				通学	通信	合計	
(1) 介護の基本的な考え方	(1) 同左	3	0	3	(1) 講義のみ		(1) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	3	3	
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	(2) 同左	0	4	4	(2) 通信講習のみ		(2) 通信講習のみ	0	4	4	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	(3) 同左	0	4	4	(3) 通信講習のみ		(3) 通信講習のみ	0	4	4	
イ 生活支援技術の講義・演習 50～55時間	イ 生活支援技術の講義・演習			52 時間	イ 生活支援技術の講義・演習		イ 生活支援技術の講義・演習			52 時間	
		通学	通信	合計				通学	通信	合計	
(4) 生活と家事	(4) 同左	3	0	3	(4) 講義のみ		(4) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	3	3	
(5) 快適な居住環境整備と介護	(5) 同左	0	2	2	(5) 通信講習のみ		(5) 通信講習のみ	0	2	2	
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(6) 同左	7.5	0	7.5	(6) 講義・演習：更衣・整容等の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、更衣、整容の実技演習します。		(6) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は更衣・整容等の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、更衣、整容の実技演習します。	3.75	3.75	7.5	
(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(7) 同左	7.5	0	7.5	(7) 講義・演習：移動・移乗の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、移動・移乗の実技演習します。		(7) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は移動・移乗の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、移動・移乗の実技演習します。	3.75	3.75	7.5	
(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(8) 同左	7.5	0	7.5	(8) 講義・演習：食事介助方法の基本を学び、利用者を想定し、食事介助の実技演習します。		(8) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は食事介助方法の基本を学び、利用者を想定し、食事介助の実技演習します。	3.75	3.75	7.5	
(9) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 同左	7.5	0	7.5	(9) 講義・演習：入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者を想定した介助方法を考え実技演習します。		(9) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は講義・演習：入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者を想定した介助方法を考え実技演習します。	3.75	3.75	7.5	

研修カリキュラム（実施要綱別紙１）	実施計画					臨時的代替方法による実施内容				
講義・演習（実習）	カリキュラム名・時間数				実施内容					
(10) 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 同左	7.5	0	7.5	(10) 講義・演習：排泄介助方法の基本を学び、利用者を想定し、排泄介助の実技演習します。	(10)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者を想定した介助方法を考え実技演習します。	3.75	3.75	7.5
(11) 睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	7.5	0	7.5	(11) 講義・演習：利用者を想定した安眠の工夫、環境整備の実技演習します。	(11)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は利用者を想定した安眠の工夫、環境整備の実技演習します。	3.75	3.75	7.5
(12) 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	0	2	2	(12) 通信講習のみ	(12)	通信教育のみ	0	2	2
(実習)※ （50～55時間中12時間以内）	(実習)※ 時間				(実習)※	(実習)※				
介護実習 〇時間										
ホームヘルプサービス同行訪問 〇時間										
在宅サービス提供現場見学 〇時間										
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習 12 時間				ウ 生活支援技術演習	ウ 生活支援技術演習				12 時間
		通学	通信	合計				通学	通信	合計
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 同左	6	0	6	(13) 講義・実技演習：片麻痺または認知症等の事例から、基本的情報の整理、アセスメント、介護計画をグループで立案し、発表します。	(13)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は同左とします。	3	3	6
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 同左	6	0	6	(14) 講義・実技演習：片麻痺および認知症の2事例を使って、一連の自立に向けた介護過程の展開方法を考え、実技演習します。	(14)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は同左とします。	3	3	6
10 振り返り 4 時間	10 振り返り 4 時間				10 振り返り	10 振り返り				4 時間
		通学	通信	合計				通学	通信	合計
(1) 振り返り	(1) 同左	2	0	2	(1) 講義・演習：研修や実習を通して学んだことを振り返り、習得したことを確認し、各自発表します。	(1)	講義・演習：研修や実習を通して学んだことを振り返り、習得したことを確認し、各自発表します。	2	0	2
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左	2	0	2	(2) 講義のみ	(2)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	2	2
追加カリキュラム 時間										
計 （ 130 時間 ）	計 （ 130 時間 ）									（ 130 時間）

※「９こころとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、１２時間以内とする。